

## 書籍案内



### 『石原莞爾将帥見聞記 - 達観した生涯の陰の壮絶闘病録 - 』

平成 23 年 (2011 年) 樋口正士 著、2,000 円 (送料及び税込み)

本書の著者・樋口正士氏は、泌尿器の専門医で、石原莞爾の日記などに書かれた病状の記述をベースにし、その病状の具合や進行状況を泌尿器の専門医として分析した異色の著書である。

樋口先生が石原莞爾に興味を抱いたのは、軍医だった父の遺品の中に石原莞爾に関する著書が数多くあったためだったとか。しかし、石原莞爾についてはおろか、戦争の話は一切されなかったらしい。

思うに、軍医としてあまりにも多くの人たちの「非業の死」や「無念な死に様」を間近にしたためであろう。

石原莞爾もまた、壮絶な闘病の末、60 歳という若さで亡くなった。あの酒田での証人喚問で一人気炎を吐いたのはそのような闘病の渦中であつたことに驚くばかりである。著者の樋口先生だけでなく、本書を読めば誰でもそんな石原の強靱な精神力と明晰な頭脳にただただ感服せざるを得ないだろう。



### 『昭和革新論・永久平和への道しるべ』 第四版

昭和 57 年 (1982 年) 協和会、1,000 円 (送料及び税込み)

手帳サイズの本冊子は、戦後の協和党・協和会発行の「昭和革新論」の最新版 (第 4 版) であるが、前身は戦前の昭和 14 年に東亜聯盟同士会から発行された「昭和維新論」にまで遡る。

「昭和維新論」はその後版を重ね、終戦直後の昭和 20 年 8 月と 10 月に 12 版と 13 版が上梓された後、昭和 22 年には国民党から「新日本建設大綱」と改題して発表された。そのほぼ 10 年後の昭和 31 年に協和党から「昭和革新論」としてさらに改題されて出版された。その最新版たる第 4 版が本冊子である。

「昭和維新論」「新日本建設大綱」「昭和革新論」と変遷されてきたが、石原莞爾とその同志たちが構想したアジアやその中での日本のあり方について、手段については当然ながらその時代時代の影響は受けつつも、その基本理念において揺るぎ (ブレ) は感じられない。

本冊子は昭和 57 年に 500 円で販売されたが、保存状態は極めて良好で、全くと言っていいほど新本時の状態を保っており、この度この貴重な「一次資料」とも言うべき本冊子を送料及び消費税込み 1000 円で頒布する。

、とも、郵便振替にて、「通信欄」に希望書籍名を明記の上、

口座番号：00130-9-410942

加入者名：石原莞爾平和思想研究会

までお願いします。振込みが確認され次第、逐次お送りいたします。